第一回公募展

メタバース美術館

COCO WARP
ADF ART MUSEUM

『　遥かなる人類の旅　ー知られざる3030年
ー　人類の進化と異文化との出会い　ー　』

この公募展では、新進気鋭のアーティスト６名の方を厳選いたしました。
彼らの作品は最新のテクノロジーを駆使し、デジタルの可能性を追求したものです。彼らの想像力とテクノロジーの融合によって生みだされる作品は観客に未来のビジョンと美的な魅力を提供します。

COCO WARPではバーチャル空間を通じてアートを体験する新たな領域を切り開いています。
公募展を通じて私達は視覚的な饗宴と知的な刺激を提供し、アート愛好家や文化交流を求める人々に感動的な体験をもたらすことを目指しています。

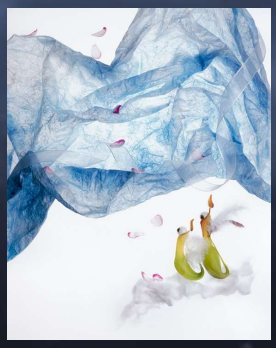
【参加アーティスト、作品紹介】
Ouma、柴原 薫、進藤 絵里子（camouCollage）、谷口 シロウ、中山 瑞陽、日比谷 泰一郎（五十音順）

日比谷 泰一郎

1987 年 埼玉生まれ
2010 年 武蔵野美術大学造形学部日本画学科卒業
2012 年 武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻日本画コース修了
2014 年 -2018 年 武蔵野美術大学通信教育課程研究室助手
何気ない日常をドローイングし作品化することによって、ここに存在していたという事実を証明するような、
日常の抽出を試みている。コロナ禍によって過去の日常がかけがえの無いものだったと気付かされ、これから
生きていく日常の価値、意義を再考させるきっかけとしての作品を生み出したい。

Ouma

東京都出身、元獣医師。ある時から亡くなった子の絵を描いて家族に送るようになり、その数は100以上に。小さな絵に感動していただけたことをきっかけに、アートを通じて獣医師の仕事の本質である「ヒトの心の癒し」が全うできる方法はないかと考え始める。2013年に美術批評家・海上雅臣氏主宰のギャラリー・ウナックトウキョウで行った、ギャラリーを画で覆う個展をきっかけにアート活動を本格化。体験と創造を鑑賞者と協働する創作者の不鮮明な作品を通じ、新しい生命の定義を模索してきた。



柴原 薫

ニューヨークにてアシスタントを経て、コマーシャルフォトグラファー／　アーティストとして活動開始。
１０年の活動の後、拠点を東京に移す。広告写真の他に、アーティストとして、
「グラスアイ」・「花」・「和紙」・「リボン」を用いて、「自然が作り上げた造形と人工物の融合」をテーマに、自然界の被写体（植物）と、人工物の被写体（リボン・和紙）等の二者を組み合わせ、自ら創造する世界"ボフィーカ-Boficca-"に起こる生物・現象を表現した写真作品を発表し、人々の心の奥底に潜む自然への畏敬の念の再認識を促す。

ZuiyO

大学に在学しながら独学で3DCGアート制作を開始。
３０３０年、とある惑星では大地の結晶が万物のエネルギー源となっており、様々な生命は結晶化することにより生命を維持し、進化し続けていた。
人類は「飽くなき生」を渇望し、幾多もの結晶化を経て不老不死の力を手に入れた。生命の有限性から解放された一方で、どこか儚い。そんなワンシーンを表現しました。

進藤 絵里子

東京生まれ。桑沢デザイン研究所卒業後、グラフィックデザイナーとして活動。 数々の商業デザインのアートディレクションを手がける。
2018 年アートブランド「カモコラージュ」を立ち上げる。ギャラリーをはじめ、百貨店やアートショップなど活動場所は幅広く。アパレルや美術館とのコラボレーション、企業や雑誌のビジュアル提供など多方面で展開。

谷口 シロウ

名古屋市生まれ。
愛知県立旭丘高等学校美術科に学ぶ。
主にドラムと少女漫画に明け暮れる。
東京造形大学絵画科抽象コースに学ぶ。
主にバンドとビデオ撮影に明け暮れる。
卒業後デザイン企画事務所に２社４年勤務。
らくがきばかりしていてデザイナーには向かず
フリーイラストレーターに。
フロムAアート展で優秀賞2回
ソニークリエイティブグランプリ銅賞
パルコグラフィック展、イラストレーション展など入賞多数。

【会場】	メタバース内 COCO WARP美術館	【入場料】	無料
【会期】	2023年6月15日～8月15日	【URL】	https://www.cocowarp.com
【開館時間】	終日無休（入場人数制限があります）	【運営】	NPO青山デザインフォーラム（ADF）